

奥多摩：シダクラ沢

- ◆日程 2023年8月26日(土)
- ◆メンバー L：SD、STS、TY、YN、DT、HK
- ◆天候 晴れのち雨

釜ノ沢に泊まりで行く予定だったが悪天予報のため急遽奥多摩のシダクラ沢に日帰りで行くことにした。私とSTSさんは電車バスで惣岳まで行きシダクラ橋で待っていたが、参加予定になかったYNさんが遅れて駐車場に到着したため、車組4名がシダクラ橋に到着したのは予定の1時間遅れだった。

シダクラ橋を渡るとすぐにシダクラ沢に入渓し、最初の4m滝はシャワークライミングを避け左から巻いたが、その後は小滝が続き快適に越えて行けた。5m程の滝では練習のためロープを出してDTさんがリードで登りHKさんがビレイした。DTさんはTYさん指導の下支点構築を実地訓練した。臨機応変に支点構築の練習をするには沢はとても良い練習場所だ。

二俣を過ぎ水が無くなりツメの急登を上がって行く。時々GPSで確認しながらツメを進むと残り100mくらいで稜線に出ようかというポイントまで来た。足元が少し崩れやすいところを私とDTさんが安定した場所まで登る。安全のためお助けひもを出して樹にフィックスして7~8m下のHKさんに向かって放り投げた。お助けひもを掴みながらHKさん、YNさんが登り、続いてSTSさんがお助けひもを両手で掴んでゴボウで上がってくる。5m下のところでSTSさんがお助けひもに体重を掛けたところ、ビシッという音とともにフィックスしていたひもが外れてSTSさんが後ろ向きに転がり落ちた。20mくらい勢いよく転がり落ちて止まった。最後尾にいたTYさんがクライムダウンでSTSさんのところまで降り、私は樹に支点を作ってロープを使ってSTSさんのところまで降りた。STSさんは意識はあったが朦朧としていて、顔面と腹部、左腕に打撲傷が見られた。特に左腕からは流血していて痺れているようだった。気分が悪そうだったのでそのまま1時間ほど動かさずその場で休ませた。救助要請をするかどうか相談したが、次第にSTSさんの意識がハッキリしてきて明らかな骨折などはなさそうだったので稜線まで移動してみることにした。

私が上からロープでビレイして空身でSTSさんに上がってもらいTYさんが下からフォローするという形で4Pで稜線まで上がった。とりあえず下山連絡担当のOYさんにはアクシデントが発生して下山が遅れる旨のメールを入れ、STSさんの受傷箇所を改めて確認して消毒や絆創膏などで治療した。沢装備を解除し、STSさんの荷物は分散して持ち、念のためSTSさんはヘルメットを被ったまま下山することにした。身体はかなり痛そうだったがゆっくり歩くことは可能だったのでかなりのスローペースで歩いた。雷が鳴り始め雨も降りだしたのでレインウェアを着て、暗くなってきたのでヘッドランプで足元を照らしながら滑り易くなった登山道を慎重に下りて行く。途中サス沢山から見えた奥多摩湖の灯りが幻想的で非現実的な感じがした。20時過ぎにどうにか奥多摩湖まで下りることができてホッとした。DT車に5人乗り、STSさんの自宅まで行き奥様にも説明と謝罪をした。DTさんが1人ずつ自宅近くまで車で送ってくれてとても助かった。翌日STSさんから受診した結果骨折は無く打撲のみだと連絡があった。1日でも早く完治されることも願うのみである。

(記：SD)

CT：シダクラ橋 9:50 - 稜線下 100m 14:00 - 稜線 16:00 - サス沢山 18:00 - 奥多摩湖 20:00 - 駐車場 20:30